

SEINAN CHANTEURS

50TH ANNIVERSARY CONCERT



2004

アクロス福岡開館10周年記念

西南シャントゥール 創立50周年記念演奏会

SEINAN CHANTEURS 50TH ANNIVERSARY

2004年12月11日（土）午後4:00開演
アクロス福岡シンフォニーホール

主催/西日本新聞社・西南シャントゥール 共催/西南学院大学同窓会・西南学院グリークラブOB会
後援/福岡市・福岡市教育委員会・(財)福岡市文化芸術振興財団・福岡県合唱連盟・福岡音楽団体連絡会
協賛/(財)アクロス福岡



「2003・定期演奏会」より

ごあいさつ



西南シャントゥール
会長／鶴原太郎

2004年も暮れようとしています。振り返ると多事多難の年だったのではないかでしょうか。

今日こうして西南シャントゥールが50周年を無事迎えることができましたこと、感謝の気持ち一杯で、御挨拶申し上げます。今日を迎えることが出来たのは、常に温かく私共を見守り応援して下さいました、皆様のお蔭と改めて心からお礼を申し上げます。

思えば50年前、呱々の聲をあげたシャントゥールは、歴代の指揮者の労苦、マネージャーをはじめ団の運営に力を尽くした人々の努力の賜物と思います。それにつけても、残念でなりませんが、昨年亡くなられた徳永麟之助会長の御努力あって今日を迎えることが出来たと思っております。徳永会長はシャントゥールが元気な時も、危うくその灯火が消えそうになった時も常に温かく見守り叱咤激励されました。その会長の愛情があつたからです。何時も心からの応援をして下さいました皆様のお蔭と共に徳永会長のお力あってのことと感謝の気持ちで一杯です。

今日は現役そして現在引退した昔のメンバー揃って熱唱します。忌憚のない御批判を賜りたいと存知ます。その御意見を謙虚に受け入れ更なる前進を致します。

本日は有難う存知ました。御挨拶には相応しくない措辞となりましたが御寛容の程。



記念演奏会実行委員会
委員長／的野恭一

本日は西南シャントゥール創立50周年記念演奏会にご来場賜り厚く御礼申し上げます。

2年前より当演奏会のために若いメンバーを中心に（と申しましても平均年齢が60歳半ばですから、ご想像いただけると思いますが）実行委員会をつくり、種々論議を重ね本日を迎えたしました。その中で、委嘱作品を是非と云うことになり、今、各方面で活躍中の大島ミチル氏に作詞作曲をお願い致しましたところ、快くお引き受けいただき『男声合唱とピアノによる“生命の誕生”』が生まれました。その他のステージもシャントゥールの50年の歩みを振返るものにしました。

練習もスタートから木、土曜日週2回のハードなものになりましたが、全員老骨に鞭打って努力いたしましたのでお聴き苦しい面もあるかと存じますが、何卒最後までおつき合い賜ります様お願い申し上げます。

また当演奏会にあたり主催くださいました西日本新聞社様、ご協賛いただきましたアクロス福岡様ほかお世話に相成りました方々に心から感謝申し上げます。

西南学院大学
学長／村上隆太

西南シャントゥール50周年記念演奏会の開催を心からお祝い申し上げます。

西南学院創立88年、大学開学55年の歴史の中で西南シャントゥールが50周年を迎えたことは誠に意義深く、喜ばしいことであり、その長い演奏活動に敬意を表するものです。

西南シャントゥールはグリークラブのOBで構成されているのだから、学生時代から50年以上歌い続けてこられたかたがたもいらっしゃるようです。メンバーを拝見しますと、70歳を超える大先輩から、最近ご卒業の若いかたがたも一緒に一つのハーモニーを作り上げておられる層の厚さに感心すると共に、その歌声の素晴らしさに感動します。グリークラブの若わかしさに経験のうまみが加わった質の高い味わいのある合唱団となっていると思います。これまで毎年の演奏会を重ねてこられ、伝統の歌を完璧にマスターされ、かつ新しい曲にも挑戦されるその情熱はどこからくるのか、まさに歌好きの皆さんだからこそできることかと推察いたします。

メンバーの皆さん、それぞれにお忙しい中、時間を都合して練習に励まれたことでしょう。この50周年記念演奏会も大いに期待されます。ご盛会とご成功をお祈りいたしますと共に、西南シャントゥールの末永いご発展、メンバーの皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。

今年度の西南シャントゥールの創立50周年記念演奏会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

本年は西南学院大学創立55の記念の年でもあります。それ以前は西南学院専門学校当時より実に80年にわたり西南学院グリークラブとして輝かしい活躍を果して来た合唱団は私共西南人にとりまして西南OBの結束の堅さと友好の強さを感じる大変誇り高いものであります。大学在学中はグリークラブ、そして卒業後はシャントゥールとして、メンバーの高齢化もものともせず、少しずつ高年層の加入もあり、老いを忘れ、楽しく歌うことをモットーに合唱にかける情熱を燃やし続けて毎週の練習に励んでおられるご様子、巾広いレパートリーを持つ西日本でも数少ない男声合唱団として、益々の力と輝きが増しますようお励み下さいます事を祈念申し上げます。

最後に、このコンサートの運営に携わっていらっしゃる関係各位のご盡力に深く敬意を表しまして私の心からのお祝いのことばといたします。

西南学院グリークラブOB会
会長／後藤照男

西南シャントゥール創立50周年を迎え心からお祝い申し上げます。

私が入学したのは昭和19年ですから60年前のことです。翌20年戦争も終り平和になった学校の帰り道、教会から男声合唱が流れてきますのではしばし立ち止まり聞きほっていました。その翌日入部、当時は8名位の部員でパート練習からはじめ、合唱の楽しさ、美しさを感じました。

その後、故石丸寛氏をお迎えして指導を仰ぎました。日本民謡、ロシア民謡、そして黒人靈歌等を練習しているうちに部員もふえ、充実してきたことを覚えています。

これからもシャントゥールの皆さんのが心を合わせて美しい合唱を聴かせて下さることをお祈りしてご挨拶といたします。

(財)アクロス福岡
副館長／西原 敏

西南シャントゥール創立50周年記念演奏会おめでとうございます。

戦後の合唱王国福岡の一翼を担われ、今日まで嘗々と築きあげられましたご功績に対しまして心から敬意を表します。一口に50年と申しましても、この間におけるご苦労は並大抵のことではなかったかとご推察いたします。先輩から後輩に引き継がれていく西南魂と、合唱を心から愛する気持ちが、シャントゥールの伝統と歴史を積み重ねてこられた大きな原動力だと思います。

今年は国民文化祭が当地福岡で開催され県内各地でたくさんのイベントが実施されました。今後の大きな課題は、これを一過性のイベントに終わらせる事なく県民文化が益々盛んになり、多くの県民のみんさんが様々な文化活動に関わることが非常に大切なことではないかと思います。私どもアクロス福岡もその一翼を担うことができれば幸いだと思っております。西南シャントゥールの皆様も若い力をどんどん吸収しながら、平均年齢の上昇とともに益々年季の入ったベテランの味を生かし、60周年70周年といつまでも福岡の合唱界のために頑張っていただきたいと思っております。

頑張れ西南シャントゥール。

西南学院同窓会
会長／富重泰行

祝 辞



福岡音楽団体連絡会会長
福岡県合唱連盟顧問
香月ハルカ

創立50周年、心からおよろこび申し上げます。

大学OBの皆さんによる活動が、當々と半世紀に亘って続けられていることは、何と素晴らしいことでしょう。

めまぐるしく変動する時代のなかで、仕事に追われ練習への参加もままならず、合唱団の存続が危ぶまれることもあったのではないかでしょうか。青春時代の純粋で熱い絆に支えられ、さまざまな困難を乗り越えて、50年の節目を迎えたことは、福岡の合唱界にとっても大きな喜びであり、深い感慨を憶えます。西南シャントゥール誕生のきっかけとなった西南学院グリークラブを、超一流の大学合唱団に育て上げられた、故石丸寛、福永陽一郎さん等、大先達の人並み優れた指導力と情熱、名テノールでもあり親身に支えてくれた初代会長、徳永麟之助さんのご人徳、傑出した音樂性をもって創立当初から常任指揮に当たられた内海敬三さん…と数多くの英知と撓みない努力が結集されて、50年という伝統が築かれていたのだと思います。メンバーの皆さんの中に前向きな取組みとチームワークの良さには、心から敬服しています。

本日の演奏会は、第一線で活躍中の作曲家、大島ミチルさんの書きおろしの作品に、個性的な編曲で知られる信長貴富氏の日本名歌集など、興味深く聴きごたえのある曲目が満載され大いに期待しているところです。これからも高齢化に甘んじることなく、若い世代も共に歩める広がりをもって、末長く西南シャントゥールのハーモニーを求める歌い続けていただきたいと希っています。



福岡県合唱連盟
理事長／岩崎洋一

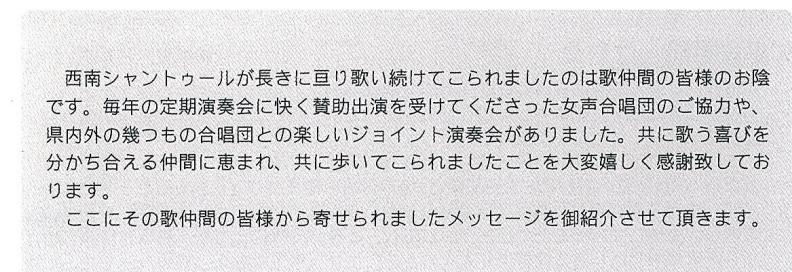
福岡の地にあって西南シャントゥールの存在は、男声合唱の世界をいち早く立ち上げられ、毎年の定期演奏会で意欲的な委嘱作品を重ねられたことでしょう。一口に50年という年月はその間に幾多の試練もあったのではないかでしょうか。そして、とぎれることなく後輩を巻き込み合唱活動を持続させている男声合唱のシンボルなのです。

男声合唱の魅力は重厚で力強いなかに温かさを秘めた響きでしょう。トップテノールの輝きのある甘い声、セカンドが歌いあげ、バリトン、バスがそれを支え、時には主役になる快感があります。やはり男のロマンがあるのです。

半世紀に渡る活動では多くの方々がかかわり、その時々の合唱文化を支えてみえたことでしょう。それは歴代の団員であり指導者なのです。そして、客演を含む方々の情熱に促されてパッションのある音楽を重ねてこられたのです。そういう意味から、今回演奏される作品が、思い出の作品や歌い継がれている愛唱歌を、学生からOBを含めて120名で演奏されるとかがっただけで心が躍ります。そして、何よりも独自の感性を持たれている大島ミチル氏への編曲委嘱が、これから西南シャントゥールの歩みを開かれたものにしているように思います。

西南シャントゥール創立50周年おめでとうございます。

仲間からのメッセージ



西南シャントゥールが長きに亘り歌い続けてこられたのは歌仲間の皆様のお陰です。毎年の定期演奏会に快く賛助出演を受けてくださった女声合唱団のご協力や、県内外の幾つもの合唱団との楽しいジョイント演奏会がありました。共に歌う喜びを分かち合える仲間に恵まれ、共に歩いてこられましたことを大変嬉しく感謝致しております。

ここにその歌仲間の皆様から寄せられましたメッセージを御紹介させて頂きます。

女声合唱団 コール・エスポート

涉外総務／新納俱子

50周年の記念演奏会がご盛会で、誠におめでとうございます。

西南シャントゥールは昭和29年4月に結成され、あの頃、未だ物資の乏しい時代でしたが、舞台に、さっそうと現れた30数名の諸兄は、明るいフランのジャケットを召し、ビシッと折り目のついた濃い色のズボンに、渋いグリーンのネクタイが上品で、洗練された都会的な雰囲気が素敵でした。当時高校生だった私は、友人と誘いあって出かけ、胸ときめかせ乍ら、うつとりと舞台を眺めておりました。また、シャントゥールの演奏会では委嘱作品の初演をいくつも手掛けられ、意欲的な企画をこなされるのに感心せられたり、ボピュラーな楽しいステージで喜ばせて下さるのも大きな魅力でした。

私共コール・エスポートは5回賛助出演をさせていただきました。ありがとうございました。指揮者の故森脇憲三先生に伺った話ですが、「畠中良輔にこの前会ったら、昔、合唱コンクールで聴いた西南シャントゥールのパーンと明るい力強い声が今でも耳に残っているんだ。九州の声は良かった！」とのことでした。

シャントゥールの永い歴史を支えてくれた故徳永麟之助会長の暖かいお人柄や、歴代のマネジャーはじめ指揮者の方々のお働き、凡て西南スピリットのなせる業でしょうか。素晴らしい団員の皆様、次は70周年を目指して、おきぱりやす！

西南プリエール

指揮者／野口 儀

西南シャントゥール創立50周年おめでとうございます。

私共西南プリエールにとりまして、西南シャントゥールは頼り甲斐のあるお兄様です。

西南プリエール創立時より、いろいろとコンサートにお誘い下さり、ご一緒のステージを経験させていただき今日迄の歩みを積み重ねて参る事ができました。本当に心から感謝申し上げます。

ひと口に50年と申しますが、きっと大変な時もありだった事と存じます。ですが、皆様方の歌に対する情熱で今日まで続けてこられたのでしょう。本当に素晴らしい事です。何であれ辞めてしまう事は簡単ですが、続けることによってみえなかったものを経験できるのも事実です。どうぞこれからもお元気で歌い続けられ、私共にも元気をおそそげいただけます様に…。そして又いつの日かご一緒にステージで歌わせていただく日を夢見て…。

西南シャントゥールが今後益々ご活躍されます様、心よりお祈り致します。

女声合唱団 けやき

指揮者／宮崎憲子

西南シャントゥールの皆様 創立50周年記念演奏会、おめでとうございます。
 男性が社会に出て、仕事をしながら合唱を続けていく、それも、50年、毎年の演奏会、なんというロマン！なんと素敵なことでしょう！
 一緒にさせて頂いた演奏会後の打ち上げ会場で、自然と湧き出るア・カペラのなつかしい歌の数々。長く歌い継がれてきた伝統と、男声合唱の深いひびきに感動したことでした。
 混沌と始まった21世紀、特に今年は例年ない天災にみまわれていますし、社会情勢はより厳しさを増していくことでしょう。しかし、こういう時代にこそ、酸いも甘いも知りつくした男声の心にしみる歌声で、人々の心を和ませ、勇気を与え、そのハーモニーで調和の社会になるよう歌い続けて下さい。
 これからも末長く男声熟年（？）パワーの西南シャントゥール万歳！！

エコー西高宮女声合唱団

代表／篠原孝子

創立50周年記念演奏会おめでとうございます。
 私たち、エコー西高宮女声合唱団は1991年第3回の定演に賛助出演していただきました。当時、西南シャントゥールは数少ない男声合唱団としてあこがれの存在でした。フォスターの作品を男女組み合ってうたわせていただきました。私たちにとってこの混声合唱は、胸のときめきを感じる貴重な体験でした。暗譜には、ちょっと苦労されたようでしたか…。合同練習の際には、優しさの中に厳しさもあり緊張していた記憶が今も残っています。皆様の豊かな人生経験から生まれてくるハーモニーは、包み込むようなおおらかさに満ちて、何度も聴かせていただきても感動します。私たちエコー西高宮にとって、一緒にさせていただいたことを誇らしく思っています。

どうぞ、いつまでも、輝き、情熱をもち続けて活躍されることを、団員一同お祈りいたします。

RKB女声合唱団

総務／内野美保子

創立50周年おめでとうございます。
 私たち、RKB女声合唱団がゲスト出演をさせて頂いて、早いものでもう12年になります。RKB女声合唱団も同じく今年で創立50周年を迎えております。継続は力なりと申しますが、50年を維持する事はなみたいでできる事ではありません。我が合唱団は何度も存続の危機を乗り越えて今が在りますが、西南シャントゥールさんにも色々な事がおありだったのではないかと思うが、続けて行く事の大変さ、でも続ける事が出来る喜び、やはり私たちは合唱が大好きなんですね。

合唱をやり続ける同志としては、今後60周年70周年そして100周年と後輩へ引き継いで行く使命があると思います。もちろん後輩たちが続けてくれる事を信じながら唱いつないで行きましょう。

佳の会

代表／内田多佳子

西南シャントゥールの皆様 創立50周年記念演奏会おめでとうございます。
 一口に50年と申しましても、その長い月旦、戦後の日本の、福岡の、合唱音楽の夜明けからその歴として常にたゆまぬ歩みを続けてこられました。
 その間数々のコンクール入賞や、委嘱作品の演奏など情熱を持って取り組まれ、社会人としても立派に両立してこられましたことに、心からの称讃の拍手を送らせていただきたくと思っております。
 記念すべきこの日を機にこれからも、心豊かな、さらなるひびきを私共にもお聞かせ下さいますよう、益々のご発展をお祈りしてお祝いのことばといたします。

フラウエンコール南 & グリーンヒルコール

指揮者／大庭尋子

西南シャントゥールの皆様、創立50周年おめでとうございます。
 西南シャントゥールが、合唱を愛するお一人お一人の情熱と熱意に支えられ、今日をお迎えになったことに、心からの敬意を送らせて頂きたいと思います。
 2001年には私が指導しております、フラウエンコール南とグリーンヒルコールが皆様の演奏会にお招き頂き、本当に有難うございました。その際に混声合唱の「夢みたものは…」と一緒に演奏させていただきましたが、その歌詩の中に「夢みたものは ひとつの愛、願ったものは ひとつの幸福、それらはすべてここにある」という一節がありました。
 50年の歴史を刻まれた西南シャントゥールの皆様は、まさに今、本当の幸福を実感なさっていることでしょう。

今後の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。そして「福岡に西南シャントゥールあり」と言われ続けて下さい。

福岡コール・フェライン

会長／山本昭輔

1946年、敗戦を契機として福岡には合唱熱が高まった。石丸、森脇、米倉のすぐれた先生たちの素晴らしい指導力と解放された若い人達の熱気がもたらした結果であろうか。特に合唱コンクールは男女、学生、職場、一般の部門毎にその技を競った。西南学院グリークラブは旧制福岡高校と、県立福岡高女は福岡女学院と、フィルハーモニック・ソサエティは福岡交響会と熾烈な1位争いをしていました。西南を率いていた石丸さんは51年、上京したが、そのOB西南シャントゥールが見事全国大会で3位に入賞。合唱王国「福岡」の名を更にとどろかせた。以後、同窓生のみで構成されたこの団体が、50年も存続して今日まで歌っていることには本当に敬意を表したい。

福岡市民にとっては、いろんな機会にコーラスを聞かせてくれる親しみ易い合唱団である。しかも定期演奏会はあの広いアクロスを毎回ほぼ満員にし、今回の様に委嘱作品を演奏するという、なかなか他の合唱団では出来ない企画をされる。まったく感心するほかはありません。福岡コール・フェラインは84年に創立して、20年しかたっていないけれど、おたがい福岡の合唱界の活性化のために今後も協力したいと思っています。

女声合唱団 コーロ・ステラ（長崎市）

指揮者／前川達雄



シャントゥールの皆様、50周年おめでとうございます。

「継続は力なり」といいますが、50年も続いたとは驚き。並大抵の力ではありません。これもひとえに、皆様の合唱に注ぐ情熱が、燃えたぎって消えなかった証左だと、心から敬服いたします。

このような優れた団体と、時々協演させていただいている私ども[女声合唱団 コーロ・ステラ]は正に玉の輿に乗ったようなもので、演奏会の度に、団員一同光栄に思い、深く感謝しております。

西南シャントゥールが、今後いつまでも続いて、益々発展していくことを祈念するとともに、近いうちには是非またジョイントをお願いして、お祝いの言葉とさせていただきます。

本当に、おめでとうございました。

ありあけエコー（対馬市）

代表／村尾綾子

西南シャントゥールの皆様、50周年記念演奏会 おめでとうございます。

昭和29年、西南学院グリークラブの卒業生を中心に結成されたとのこと、合唱を愛する熱い思いと、メンバーの方々の結束力が50周年という、輝かしい今日をお迎えになられたことを、すばらしく感銘いたします。4年前、私共ありあけエコーのためにジョイント頂き誠にありがとうございました。大変光栄に思っております。あの時の感激は忘れることが出来ません。本日は、シャントゥールの皆様の素敵な歌声を拝聴出来ますことを楽しみに対馬より海を渡って参りました。

最後になりましたが、西南シャントゥールの今後の発展を、心よりお祈り申し上げて、お祝いの言葉とさせていただきます。

西南学院グリークラブ

西南シャントゥール創立50周年記念演奏会の開催をお慶び申し上げます。

西南学院グリークラブは、学院創立の3年後である1919(大正8)年にチャペルサービスを目的として創部されました。当初は合唱とオーケストラの2本立てで活動していましたが、後に純粋な男声合唱団へと変わり、現在に至っております。昭和21年に専任指揮として故石丸寛氏を迎え、氏の音楽性を吸収すると共に故徳永麟之助氏、故福永陽一郎氏、内海敬三氏をはじめとする諸先輩方の多大な努力により、西南学院グリークラブも大きく成長して参りました。本年度、1月16日(日)に行う第53回定期演奏会では、学生ステージの他、OB合同ステージも行います。会場は中央市民センターホールです。是非お誘い合わせの上、ご来場下さい。

夢を追い続けて

内海 敬三

西南シャントゥール名誉指揮者
合唱団ボロロッカ指揮者

「タクトと絵筆」(横田正一郎著)に石丸寛さんの言葉がありました。「私がかつて教えていたある大学の合唱団は、年々卒業生を生み出しているから、たいへんな数のグリー・メンを社会に送っているはずなのだが、どういうわけか、この数千にも及ぼうというグリー・クラブOBが、その後合唱をうたっているという話をほとんど聞かない」「彼等が大学を出て、管理社会の一員となり、体制に膚められて合唱を続けることができなかつたとしたら、いったい何を歌うはめになるのだろうか」というのです。

今年は各地から60人を超えるOB達が来てくれました。そしてその多くが今も合唱を続けていて、中には80才を超える先輩も何人もいます。この演奏会では大島ミチル氏の意欲的な新曲「生命の誕生」に挑戦致しますし、また、応援のOBと現役を加え総勢120名のメンバーで男声合唱の名曲「月光とピエロ」を歌います。このような我々の合唱に対する姿勢が石丸さんの疑問に対する答えとなればと願っています。

「月光とピエロ」といえば、第一回のコンサートでは、オペラで、また合唱界で活躍していた福永陽一郎さんの指揮で歌い、その時完全燃焼した、あのすがすがしい感動は今でも忘れられません。今後も「月光とピエロ」を歌う度に、長身から振り下ろすあの長い手の福永さんの指揮を思い起こすことでしょう。

あの頃はマネージャーの乙藤君と二人で、夜遅く糊の缶をもって演奏会宣伝のポスターを貼って回ったものでした。(当時はポスターを貼るのに許可はありませんでした)ポスターは知人の山田依子さんに気軽に頼んで描いてもらったのですが、彼女は今では「独立」の画家として活躍しております。

この50年の間には、山本文房堂のデッサン教室の小さな部屋をお借りして、4、5人で歌っていた時もありました。しかし、それもままならず、意を決して先輩の徳永麟之助さんに、やめたい旨報告したところ「一旦やめたら再開は困難になる。なんとしても続けるように」と諭され不承不承引き下がって来たことが懐かしく思い出されます。当時の青年達は今ではオジサンやオジーサンになり、その数は50人を超えるまでになりました。そして白髪になっても、ハゲになっても、杖をついてでもよい、歌い続けようと励まし合っています。

40周年の記念演奏会では石丸さんの指揮でうたいましたが、あの頃はもう石丸さんの病気は進行していて、何かと氣をつかったのですが、練習の帰り「僕はもうダメだよ」とフト呟かれたのに、返す言葉はありませんでした。あれはシャントゥールが石丸さんの指揮で歌った初めてで、最後の演奏会でした。当時のマネージャーの佐藤君が指揮をお願いした時、最初は躊躇されたにも拘わらず結局承諾していたいたいのは、石丸さんには矢張り前述のあの思いがあったからでしょう。

「女学生の頃からずっと西南の合唱を聞いていて、演奏会の後、今度も友人達と食事をして帰ります」とある年輩の女性がいわれました。われわれの演奏会が女子同窓会のダシになるのならば喜ばしいことです。

このような様々な人々に支えられ今日の、そして今後のシャントゥールがあるのだと感謝しています。今後とも、夢を追い続けるシャントゥールの応援をお願いします。



《第Ⅰ部》

Opening

西南学院校歌

水町善夫/作詞・島崎赤太郎/作曲・石丸寛/編曲
指揮: 德永和彦

1 無伴奏男声合唱による日本名歌集
「ノスタルジア」より

花

武島羽衣/作詩・瀧廉太郎/作曲

この道

北原白秋/作詩・山田耕筰/作曲

箱根八里

鳥居枕/作詩・瀧廉太郎/作曲

赤とんぼ

三木露風/作詩・山田耕筰/作曲

ペチカ

北原白秋/作詩・山田耕筰/作曲

鉢をおさめて

時雨音羽/作詩・中山晋平/作曲

故郷

高野辰之/作詩・岡野貞一/作曲

信長貴富/編曲

指揮: 德永和彦

2 創立50周年記念 委嘱作品

男声合唱とピアノによる「生命の誕生」 大島ミチル/作詞・作曲

指揮: 内海敬三

ピアノ: 堀奈々

第1章 生命の誕生

第2章 細胞分裂－生命の拡張－

第3章 欲望の時代

第4章 不安の時

第5章 破壊～再生

—— 休憩 (15分) ——



《第Ⅱ部》

Opening カレッジ・ソング

She Wants Brave Noble Men

A.N.Graves/作詞・石丸寛/作曲
指揮: 馬頭経明

3 西南シャントウール50年の歩み

ナビゲーター: BUTCH
(永淵幸利)

指揮: 馬頭経明

「O Sacrum Convivium」 Ludovico Grossi da Viadana/作曲

昭和29年全日本合唱コンクール出場 入賞曲 指揮: 内海敬三

課題曲「家路の歌」 武井つたひ/作詞・平井康三郎/作曲

自由曲「De Ole Ark's a-Moverin'」(古きノアの方舟にて)

David W. Guion /採譜・Carl Dais /編曲

指揮: 馬頭経明

「カチューシャ」 Isakovskij/作詞・Blanter/作曲

石丸寛/編曲

「Annie Laurie」 スコットランド民謡

Emerson/編曲

「ずいづいづつころばし」 日本古謡

石丸寛/編曲

「竹田の子守唄」 京都、竹田地方 日本民謡

林雄一郎/編曲

「The Battle O'Jerico」 A.-A. Spiritual

石丸寛/編曲

(合同ステージ)

指揮: 内海敬三

男声合唱組曲「月光とピエロ」より 堀口大学/作詩・清水脩/作曲

IV 「ピエロの嘆き」

V 「月光とピエロとピエレットの唐草模様」

Ending カレッジ・ソング

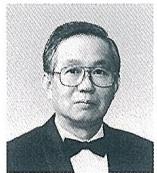
Ah Seinan!

A.N.Graves/作詞・石丸寛/作曲
指揮: 馬頭経明



指揮／内海敬三 (うつみ けいぞう)

1954年、西南学院大学商学部卒業。56年、英文科卒業。
1950年、西南学院グリークラブ指導者となり翌51年と連続して西部合唱コンクールに優勝。全国合唱コンクールでも連続3位に入賞して、戦後のグリークラブの第一期黄金時代を築いた。
1954年(昭和29年)4月、西南シャントワール創設。西南シャントワール名誉指揮者。
合唱団ボロロッカ指揮者。



指揮／馬頭経明 (ばとう のりあき)

1959年、西南学院大学商学部卒業。西南学院高校、大学を通じグリークラブに在籍、在学中 学生指揮者として活動。1954年西南シャントワール設立時 高校3年生で参加、西南シャントワール副指揮者を経て2002年より指揮者。
1996年～2002年オホーツク国際音楽セミナー・小林研一郎指揮法講座に参加。
指揮を高石 治、松岡 究、小林研一郎の各氏に師事、和声を故 竹内 剛氏に師事。
現在 福岡音楽文化協会に勤務。



指揮／徳永和彦 (とくなが かずひこ)

1961年、西南学院大学商学部卒業。
(株)福岡銀行・福岡コンピューターサービス(株)退職後、現在、(財)福岡県中小企業振興センターに在職。
福岡高等学校合唱部、西南学院グリークラブを通じて学生指揮を務める。
西南シャントワール副指揮者より現在に至る。



ピアノ／堺 奈々 (さかい なな)

福岡出身。5才よりピアノを始める。田村理恵子、鈴木洋両氏に師事。
福岡女学院高等学校音楽科卒業後、ドイツ・エッセン国立芸術大学に留学し、Prof. Till Engel, Thomas Günter に師事。
2000年卒業後、帰国。現在福岡にて活動中。
ミュージックステーション福岡講師。

BUTCH (永淵幸利：FM福岡パーソナリティ)

1955年11月7日生まれ。福岡県出身、西南学院大学卒。
演劇活動を経て、博多の名物居酒屋「勝手にしやがれ」で、チーフとして働いていた。
無類の飲み助として知られ、寝食を忘れて飲み歩くその姿は、人々に感動と勇気を与えていたらしい？ 七色の声を駆使してのナレーション、ヴォイスパフォーマンスは有名で、現在FM福岡を中心に活躍中。金曜の午後8時間をぶっちぎる暴れん坊番組「ブッチ・カウントダウン・レディオ」では、グルメ本「ザ・メッシュラン」や「ウラカターズ」のCDリリースなど、常に注目を集める活動を続けています。

現在の主な出演番組

- 「スーパー・レディオ・モンスター ラジ★ゴン」
(月・火、12:00～16:00)
- 「ブッチ・カウントダウン・レディオ」
(金、12:00～12:30, 13:30～20:00)
- 「土曜ドラマ館」(土、12:30～12:55)



第Ⅰ部 <オープニング曲>

西南学院校歌

水町善夫 作詞・島崎赤太郎 作曲・石丸 寛 編曲



在りし日の 石丸 寛 氏

戦後、福岡で軍服を脱いだ私に最初に訪れた音楽の依頼は、戦争中に中断していた西南学院グリークラブを復活させることでした。篤の御用ラジオの学院講堂に行ってみると、8人のいが栗頭の学生が二部合唱で『起き上がりこぼし』を歌っていました。こりや大変なことを引受けてしまった、と思いましたがあの祭り……自分でポスターを描いて校内のあちらこちらに貼り、団員募集。やがて25、6人の四部合唱が可能なクラブに発展したのです。学校の希望で、グレーヴス先生の詞に新しい作曲して生まれたのが『Ah Seinan!』などの男声合唱曲です。そのとき、校歌の男性版も作ろうということになりました。島崎赤太郎先生の校歌は、九州男児が歌うにふさわしい、明るく、格調の高いものです。私は編曲する歓びを感じながら、5分間ぐらいで編曲を終えました。メロディが実に自然な流れで出来ていて、四部の和声を付けるのに全く苦労する必要が無かったのです。この校歌はテンポを変えて、ゆっくりと壮大に歌っても、また別の味わい深い美しさがあり、興味深い音楽性を秘めていると思われます。一般的な学生諸君が歌うときは、ト調が適當かと思いますが、グリークラブのような歌専門のグループが歌うときは、短3度ぐらいうげて変口調で歌うのも良いのではないかと考えます。いずれにしても、歌い易く、自然で、格調のある美しい曲だと思います。

1. 岸を洗う 紺碧の波 松の緑
青春の色 希望の輝 学院の誇ぞこれ
西南 西南 若き西南

2. 理想に燃ゆる 子等が仰ぐ 筑紫の空
高く清し 光明と生命と 学院の望ぞこれ
西南 西南 愛の学園

3. 遙けきかな わが行く道 さあれ友よ
使命重し 起てよ勇ましく
学院の若き子等よ
西南 西南 永遠の学院

石丸 寛 (いしまる ひろし)

1922(大正11)年中国・青島生まれ。
1944(昭和19)年文化学院大学芸術科卒業。
文化学院時代より山田一雄氏に師事し、管弦楽法、指揮法を学ぶ。戦後九州交響楽団を創設し、初代常任指揮者となる。
その後、東京交響楽団を指揮し、中央にデビュー。各地の交響楽団の指揮やTV番組等に出演して一般に広く親しまれていた。

また、西南学院校歌の編曲者で、カラツジソング「Ah Seinan!」の作曲者やグリークラブの指導者としても本学とは深いかかりがある。

主な著書に『それゆけオーケストラ!』『棒ぶりラソディ』、作曲作品に交響詩「舞扇」、「交響管弦楽のエスキース」などがある。(1998年3月23日、76歳にて逝去)

「石丸 寛さんを偲ぶ会」が開催されました。

去る10月20日、城南区の末永文化センターにて、没後七年を迎えた故石丸寛氏を偲ぶ会が催されました。当日は台風が福岡を直撃する生憎の大嵐の日となり、開催が大変心配されましたが、開会迫る夕刻には嘘のように風も収まり予定通りはじめることができます。関係者をほっとさせました。当日は石丸氏が育て上げた九州交響楽団を始め、氏とゆかりの深い合唱団である西南シャントワール、RKB女声合唱団、そして九響合唱団が加わり、氏が編曲した曲をそれぞれが数曲熱唱しました。この後、全員がビールやワインを手に取り、石丸氏を偲んで集まられた会場の皆さんと共にミニパーティに移り、氏を偲ぶにふさわしい夜となりました。開催くださいました発起人の方々に改めて感謝申し上げます。

1. 無伴奏男声合唱による日本名歌集

「ノスタルジア」

信長貴富 編曲

今宵は、信長貴富氏編曲による日本の歌「ノスタルジア」を選曲しました。皆様ご存知の名曲なだけに却って難しいのですが、信長氏独特の編曲の面白さと男声合唱ならではのア・カペラの魅力？をお楽しみください。

皆さんそれぞれにノスタルジア「郷愁」をおもちでしょう。自分が歌った遠い日のかすかな記憶、周りの情景がよみがえり、そして一緒に聴き歌った人の顔も徐々に浮かんでくるのでは…？ありし日を思い、口ずさんでいただければ幸いです。

日本の名歌が、子どもたちに受け継がれ、これからも永く歌いつづけられていこうことを願いつつ、言葉の情感と旋律に思いを込めて、皆様の心の琴線に触れることができればと願つて、今宵の名曲をお届けします。
(記：指揮者／徳永和彦)

1. 花 詩/武島羽衣

♪春のうららの隅田川、のほりくだりの船人が、
櫻のしづくも花と散る、ながめを何にたとふべき。
♪見ずやあけほの露あびて、われにもの言ふ桜木を、
見ずや夕ぐれ手をのべて、われさしまねく青柳を。
♪錦ありなす長堤に、くるればのほるあほろ月。
げに一刻も千金の ながめを何にたとふべき。

2. この道 詩/北原白秋

♪この道は いつか来を道 あゝ そうだよ アカシヤの 花が咲いてる
♪あの丘は いつか見た丘 あゝ そうだよ ほら 白い時計台だよ
♪この道は いつか来を道 あゝ そうだよ お母さまと 馬車で行ったよ
♪あの雲も いつか見た雲 あゝ そうだよ 山査子の 枝も垂れてる

3. 箱根八里 詩/鳥居 忍

♪箱根の山は 天下の險 矢谷閣も物ならず 万丈の山 千仞の谷 前に聳え後に支う
雲は山をめぐり 霧は谷をとざす
昼夜闇き杉の並木 羊腸の小径は苔滑らか 一夫間に当るや万夫も開くなし
天下に旅する剛毅の武士 大刀腰に足駄掛け 八里の岩ね踏み鳴す
斯くこそありしか往時の武士
♪箱根の山は 天下の阻 屢の棧道数ならず 万丈の山 千仞の谷 前に聳え後に支う
雲は山をめぐり 霧は谷をとざす
昼夜闇き杉の並木 羊腸の小径は苔滑らか 一夫間に当るや万夫も開くなし
山野に狩する剛毅の壯士 猛銃肩に草鞋掛け 八里の岩ね踏み破る
斯くこそありけれ近時の壮士

4. 赤とんぼ 詩/三木露風

♪夕焼小焼の赤とんぼ 負われて見たのはいつの日か
♪山のはだけの桑の実を 小かごにつんだはまほろしか
♪十五でねえやは嫁にゆき お里のたよりもたえはてた
♪夕焼小焼の赤とんぼ とまっているよ竿のさき

5. ペチカ 詩/北原白秋

♪雪のふる夜はたのしいペチカ ペチカ燃えろよ お話しましょ
むかしむかしよ 燃えろよ ペチカ
♪雪のふる夜はたのしいペチカ ペチカ燃えろよ おもては寒い
栗や栗やと 呼びます ペチカ
♪雪のふる夜はたのしいペチカ ペチカ燃えろよ じき春きます
いまに柳も 萌えましょ ペチカ

6. 鉢をおさめて 詩/時雨音羽

♪鉢をおさめて 日の丸あげて 胸をドンと打ちや 夜あけの風が
そよろ そよろと 身にしみわたる
♪灘の生酒に 肴は鯨 樽を叩いて 故郷の歌に
ゆらり ゆらりと 陽は舞いあがる
♪金の扇の 波 波 波に 繩のたすきで 故郷のおどり
男 男の 血はわきあがる
エンヤツサ エンヤツサ ヤンレツサ ヤンレツサ
おどりつけれて 島かと見れば 母へ 港へ みやげの鯨

7. 故郷 詩/高野辰之

♪兎追いしかの山、小鮎釣りしかの川、夢は今もめぐりて、忘れがたき故郷。
♪如何にいます父母、恙なしや友がき、雨に風につけても、思いいざる故郷。
♪こころざしをはたして、いつの日にか帰らん、山はあおき故郷、水は清き故郷。

誰もが口ずさんだことのある日本の歌の編曲は、私自身ぜひ取り組みたいと予てから思っていたことであり、意欲を掻立てられるテーマでした。「難しくなく、ア・カペラで」というコンセプトは少々悩ましいものでしたが、既に高名な作曲家による名編曲が数々ある中で、小生が新たに編曲する意義があるとすれば、それはそのコンセプトの中に見い出せるのではないかと考えたのです。「難しくなく」という意図が、決して妥協に結びつくのではなく、ア・カペラの魅力を引き出すべく極力無駄を省くという方向に向けられるよう努めたつもりです。

編曲に際しては原曲からあまり逸脱しないよう留意しながら、和声や展開の中に適度な意外性を加味し、印象的な作品にする事をを目指しました。初めてア・カペラに挑戦される方でも取り組めるような歌いやすい作品から、少々骨の折れるものまでありますが、どの曲も歌い手・聴き手とも楽しんでいただけるものになったのではないかと思っています。

便宜上この曲集では、ほぼ成立年順に曲が並べられています。演奏会等で取り上げる場合は、自由に組み合わせていただければと思います。

『ノスタルジア』(=郷愁、nostalgia 伊語) という曲集名は、『うたざんまい』の編者の一人でもある指揮者の清水敬一先生が名付けてくださいました。拙作にはもったいないくらいの素敵なタイトルだと思います。『ノスタルジア』がより多くの方に愛唱・愛聴していただけれる曲集になることを願っています。

編曲者／信長貴富

「ノスタルジア」楽譜より抜粋

50周年記念委嘱作品

「生命の誕生」について

大島ミチル

私がまだ子どもだった頃、いつか必ず書きたいと思っていた曲があります。それは、「誕生から死まで」の組曲です。何故なのか？自分ではっきりと理由が言えるわけではありませんが、「死」をテーマにした曲を、それこそ「自分が死ぬまで」に沢山書きたいという願望が私の中にありました。それは同時に「いかに生きるか？」という事をテーマにするという意味だったからかもしれません。



長崎という被爆の地を故郷に持つ私は、“死と生を行ったり来たりしたその時の事”を幼い頃、母から毎日のように聞かされました。生と死は自然と一体化するものではないだろうか？と子どもの頃から漠然と考えていた私にとって、人的な理由による死はあまりにも悲しい事ですし、現代において、あまりにも数多くの死が、そういう理由によってもたらされる事を残念な気持ちで見送るしかない事に悔しさすら覚えます。



人は自然や動物などに対してもっと謙虚でなければいけない……これは、ある絵本作家の方から聞いた話です。同じように願いながら、そして、人間を真正面から見る気持ちで今回の曲を作曲しました。

なかなか仕上がりしない曲をじっと我慢して待っていて下さった西南シャントゥールの皆さんのご好意と熱心な練習などなど、それこそ頭の下がる思いで、今日を迎える事が出来ました。本当にありがとうございます。

大島ミチル（作曲家）

国立音楽大学作曲科卒業。在学中から作、編曲家としての活動を始め、映画音楽、CM音楽、TV番組音楽、アニメーション音楽、施設音楽など様々な分野で活躍。在学中に交響曲「御誦」を発表、その後もNHKスペシャル「大英博物館」「太平洋戦争」「生命～40億年はるかな旅」などの大規模な番組を手がけ、オーケストラやシンセサイザを巧みに操り、壮大でドラマチックなスケールのあるサウンドと美しいメロディは各界から注目を集めている。また映画「失楽園」「長崎ぶらぶら節」やテレビドラマ「ショムニ」、NHK朝の連続テレビ小説「あすか」を始め多くのヒット作品も手がけている。第21回、第24回、第26回、第27回日本アカデミー優秀音楽賞、毎日映画コンクール音楽賞なども受賞。また、吉永小百合さんの原爆の朗読詩「第二楽章」「第二楽章～長崎から」の音楽も手がけ、各地での朗読会にも参加するなど幅広い活動をしている。

ホームページ(<http://www.michiru-oshima.com>)

【主な作品】

- 映画／「長崎ぶらぶら節」「失楽園」「ゴジラ対モスラ対メカゴジラ」「模倣犯」「阿修羅のごとく」「陽はまた昇る」「海猫」、他多数
- 番組音楽／NHKスペシャル「大英博物館」「太平洋戦争」「生命～40億年はるかな旅」、NHK朝の連続ドラマ「あすか」、「ショムニ」「ごくせん」「ワーズワースの庭」、他多数
- CM音楽／リポビタンD、NTT、他多数
- イベント音楽／博覧会、国民体育大会式典、他多数
- ミュージカル・舞台／「ローマの休日」
- その他、アニメ「鋼の錬金術師」、ゲーム施設音楽など多数
- 交響曲『御誦（おらしょ）』
- 男声合唱曲『御誦（おらしょ）』、男声合唱曲『僕たちが大人になったら』、男声合唱曲『リバーラギ』、女声合唱曲『ウーマンインザース』

2. 男声合唱とピアノによる

「生命の誕生」

大島ミチル 作詞・作曲

「生命の誕生」

滔々と流れゆく歴史のなかで、生命の誕生は繰り返され、また争いも繰り返されて行く。これは極めて重いチャレンジングな曲です。そして歌詞の裏には、この時代の渾沌は人間の愚かさに起因するという大島氏の警告が読み取れます。

第一章 生命の誕生

ピアノの重厚な響きが非情な時の流れを暗示するかのようにゆっくりと、単調に繰り返されるなかで、テナーが「すべての始まりがきざまれた」と生まれ出る生命の明るい未来を期待するかのような旋律をうたう。しかし、実はその「すべて」には愛と同様憎しみも、平和と同様に戦争も含まれるのです。

第二章 細胞分裂 一生命の拡張—

細胞の分裂、心臓の鼓動を思わせるリズミカルな5拍子のピアノ伴奏を縋るよう、テナーとベースが交互に祝福されるべき躍動する生命体の実存を歌う。そして「あしたはもっと、もっと」と繰り返しながら、明るい未来がつづくことを祈るようなつぶやきでおわる。

第三章 欲望の時代

争いに勝ち、富と権力を手にし、万物の祝福を受ける。更に燃える情熱で青春を謳歌しながら、輝く未来を夢見ながら踊る。

第四章 不安の時

文明は我々に物質的な豊さを与えてくれた。それでいて、心の奥を吹き抜ける空しさは息苦ししく、暗い不透明な未来への彷徨となる。

第五章 破壊～再生

一気にすべてが崩れ出す。憎しみは戦争となり、自然は破壊され、「水が欲しい！」「水が飲みたい！」という原爆の体験を思わせる阿鼻叫喚の中で、絶望的な世の終わり、地球の消滅が叫ばれる。静寂の後、地を這うようなベースの祈りが続き「アーメン」（かくあれかし）の声が響く。

やがて「わたしは流れの中にいる」の言葉とともに一章の明るい旋律が再び表われる。歴史の流れの中で「人間は繰り返す」と歌う。最後に繰り返される明るい旋律の響きは、大島氏の未来への祈りでもあるのでしょうか。

(記：指揮者／内海敬三)

第一章 生命の誕生

すべての始まりが その時刻まれた
運命の鐘が鳴る
突然 現われた あなたの そのすがた
何という 美しさ
ここは どこなのか 教えて
わたしは 流れの中にいる
やがて 苦しみから 解放された
やわらかな 訪ねに 安らかな 幸せを
瞼(まぶた)に 息吹が 甘い 香りが
清らかに 眠れ
心震わす今日の ひかり輝く未来
忍び寄る夜風よ かすかに
誕生の時が来た はじまりだ はじまりだ

第二章 細胞分裂—生命の拡張—

弾ける 弾けてゆく 新しい細胞
飛び跳ね 散らばる
膨らむ 瞬く間に
この身を 流れに任せ
TA TU TE TU
もうすぐ 一つになる
もうすぐ 私 集まる 燃えてく
熱いよ 熱い 姿を現した 姿を 姿
今こそ 私だ 今こそ 私
宇宙の 細胞 ここに
天地の 眠りも 醒めて
PA PU PA PO
祝え 祝え 祝え
白い手足 黒い瞳 紅い唇
喜びに溢れ ここにいる
響く 韶く 鼓動の音
見える 見える あれは何だ
あなたの顔 あなたの胸
鳥が 高く歌う 風が匂う 甘く
太陽さえ 感じるまま 日ざしを浴び
夜に 露も深く 星が 光り投げ
清らかに 降り注ぐ 神秘の時
私は いる
大きく 強く 明日はもっと 明日はもっと

第三章 欲望の時代

争いを 勝ち得て 富と力 手にした
この日々こそが 青春の証
すべてが 天上の 鳴るように
熱く燃え上がる 集まる
血潮流れる マグマのよう
空を仰げば 金色の 光の道が
果てしなく続く海原 薔薇色に満ちて
祝う小鳥の鳴き声に 風も緑も歌い
恋も夢もすべてかなえた
争いを 勝ち得て 富と力 手にした
この日々こそが 青春の証
歌え 踊れ 高く 強く
歌え 踊れ

第四章 不安の時

長い年月 夢みてた
知恵と勇気に支えられ
充たされたのは 欲望の
何もかもが この手にあるだろう
だけど 少し 胸の奥に
遙か彼方 聞こえてくる
何もかもが この目に見える
空しく聞こえる
心は ざわめく
欲望 かなえたけれども 震える
なぜなの 教えて だれか
息も出来ないくらい
暗く霞む彼方へ 導かれて
私は さまよう
森も 空も 小川も
光り充ちているけど
凍りついた影が 奔(はし)る
なぜなのか 何か起こる
何かが起こる

第五章 破壊～再生

すべてが崩れ出す 憎しみに自覚めた この時が
ついに ここまで来たのだ
炎が燃え上がる 怒りに満ちあふれた この地球
ついに ここまで来たのだ
争う戦士たち 血の海は広がる この街の
すべてが無くなる 消えてく
震える子供たち その叫びが聞こえる この恐怖
平和は 二度とは戻らぬ
戦争が始まった 終わることのない
永遠に 苦しむだけ
大地が消えてゆく 消えてゆく大地が
いのちある 大切な森も 林も
水も何もかもが ああ 水が欲しいよ
ああ 生きるために 飲みたい 飲みたい
冷たい死の臭い ここにも あそこにも
死の臭い 近づく 聞こえてくるのだ
閃光(ひかり)がやって来た
もうすぐ ああ もうすぐ
この世界 すべてが消え去る すべてが
最後の瞬間が 空から降ってくる もうダメだ
地球は 今 すべて 消える

すべての始まりが その時刻まれた
運命の 鐘が鳴る
突然 現われた あなたの そのすがた
何という 美しさ
ここは どこなのか 教えて
わたしは 流れの中にいる
やがて 苦しみから 解放された
やわらかな 訪ねに 安らかな 幸せを
瞼(まぶた)に 息吹が 甘い 香りが
清らかに 眠れ
繰り返す 繰り返す 人間は繰り返す
永遠の時 すべてには 繰り返す

第Ⅱ部 <オープニング曲>

She Wants Brave Noble Men

<エンディング曲>

Ah Seinan !

A.N.Graves 作詞・石丸 寛 作曲

「She Wants Brave Noble Men」および 西南学院を代表するカレッジソング「Ah Seinan!」は戦後の西南グリーを復活させた指揮者故石丸 寛氏が、西南学院大学の教授であった故Alma O'Norean Graves 教授の詩に作曲された“カレッジソング”です。カレッジソング2部作として西南学院大学では機会ある度に歌われており、「Ah Seinan!」は「校歌」に次ぐ大学を代表する愛唱歌であります。

Ah Seinan !

'Neath the stately pines,
By the ocean blue,
Stands our college fine,
To thee we'll be true, be true.

(refrain)*
Ah Seinan!, dear Seinan!
May thy sweet mem'ries linger long,
Ah Seinan!, dear Seinan!
For thee we will be true and strong.

And the dear old campus,
With its friendly shade
Where sweet friends greet us,
From our minds won't fade, won't fade.
(refrain)*

Too soon we leave thy care,
And part from friends so dear,
But all our fame we'll share,
With our Alma Mater.
(refrain)*

聳ゆる松の許、
碧き海近く、
優美なる我らが学び舎建たり。
汝に我らが忠誠を誓わん。

嗚呼 西南！ 愛する西南！
汝の美しい思い出よいつまでも残れかし。
嗚呼 西南！ 愛する西南！
汝がため我らは真にして強くあらなむ。

愛する懐かしきキャンパス；
心地よい陰をなし、
親しき友とまみえるところ、
我らが胸より消え去ることなし。

汝の庇護の下を去り、
親しき友と別れる時は疾く来たれり。
されど、我らが名誉
共に分かたむ、母校と共に。



Alma O'Norean Graves 教授

She wants Brave Noble Men

I ought to love my school,
Seinan in which I live.
Yes, I am sure my heart,
It's truest love should give.

For if I love my school,
I'll try to be a man.
My school may be proud of,
And if I try I can.

She wants brave noble men,
She needs men true and kind,
My school needs me to be
the best man she can find.

私は愛します わが母校を、
私が日々を送る西南を。
そうです、私は確信するのです、
母校の眞実の愛が授けられることを。

母校を愛するというならば、
私は「男」になるべく努めましょう。
母校は私を誇りとしてくれるでしょう、
私ができる限りの努力をするならば。

母校は男ましく気高い「男」を望み、
誠実で親切な「男」を求めています。
わが母校は私に、探し得る「最高の男」
になれと求めています。

3. 西南シャントゥール50年の歩み

「西南シャントゥール50年の歩み」は永年歌ってきた思い出の数々の曲の中から、故 石丸 寛氏の作・編曲を中心に演奏致します。

O Sacrum Convivium “聖なる宴”

L. G. da Viadana 作曲

グリークラブの定期演奏会のステージは、以前は宗教曲あるいはAfro-American Spiritualsで始められていました。これは、私たちが西南学院に基を置いていたからであります。本日も、中世の聖歌「聖なる宴」から始めます。

「おゝ キリストが食される聖なるうたげよ。キリストがその中心にいますことを。キリストが苦しみを受けたましいことの記憶が新にされんことを。魂がキリストの恵みと喜びで充たされんことを。天国へいけるという来るべき栄光の証が与えられんことを。ハレルヤ」

昭和29年度全日本合唱コンクール入賞記念

・課題曲 「家路の歌」

武井つたひ 作詞・平井康三郎 作曲

・自由曲 「De Ole Ark's a-Moverin'」

David W. Guion/探譜・Carl Dais/編曲

西南シャントゥールが結成された昭和29年、シャントゥールは西部合唱コンクールに初出場しました。当時は“福岡合唱団”“福岡合唱協会”がコンクールの常連で大活躍していました。鹿児島市民会館で行なわれた西部合唱コンクールに福岡代表として初出場、見事“第1位”を獲得。Afro-American Spiritualを自由曲に選んだ事でも話題になりました。そして西部代表として全日本合唱コンクールに出場、自由曲の「De Ole Arks a-Moverin'」の掛け声“Ya!”が小倉市民体育館に大きく“こだま”し、拍手が鳴り止まなかったのを憶えています。そして初出場「第3位」に入賞した思い出のコンクールがありました。

カチューシャ

イサコフスキイ 作詞・プランテル 作曲・石丸 寛 編曲

西南グリーのOBにとって「カチューシャ」は忘れる事の出来ないロシア民謡なのです。昭和22年の第1回西部合唱コンクールで西南学院グリークラブは当時の指揮者 石丸 寛氏に率いられ、石丸氏編曲の自由曲、ロシア民謡「カチューシャ」を本邦初演、当時の一方の雄“福高”（旧制、現九大）を退け“優勝”、戦後の西南グリーの歴史は「カチューシャ」ではじまったのであります。

「カチューシャ」は石丸 寛氏がソ連大使館（現ロシア大使館）へ赴き、ソ連兵から採譜し持ち帰ったと言われています。この後、皆さんのがよくご存知の「岸辺に立ちてうたう…」で始まるおなじみのカチューシャの歌詞が関鑑子の訳詞で出版され、ひろく歌われるようになりました。

当時の事を故 石丸氏は「第1回のコンクールで、戦後いち早く立派な合唱を聴かせていた福高（旧制）の嵐のような拍手のステージのあと西南グリーは悲壮な決心でステージに上がり、忘れ得ぬ《カチューシャ》を歌いました。ステージを下りてきた学生たちは皆、私の顔を見に集まってきました。審査の結果など、どちらでも良い。指揮者さえ『良かったぞ！』と言ってくれたら……といった顔つきでした。私はいまステージの上で最後のアコードを振り終った時にグッと湧き上がって来た感動を、一人も洩れなく全員に話したいと思って『これで全員か』とききました。顔を見合わせてそれを確かめてから『もう何も言うことはない。素晴らしい出来だった』と言いました。ワーッと歓声をあげて学生たちは走っていきました。よろこびに生き生きとした学生たちの顔が今でも思い出されます。」と、1957年西南グリー定演のプログラムの中で語っています。

Annie Laurie

Emerson 編曲

スコットランド民謡として古くから親しまれ、世界中で歌われている名曲です。

17世紀の英国スコットランドのフィングランド家出身の詩人ウイリアム・ダグラス（William Douglas）が、マクスウェルトンの貴族ロバート・ローリーの長女アニー・ローリー（Annie Laurie 1682-1764）に捧げた詩に、のちに女流音楽家ジョン・ダグラス・スコット（John Douglas Scott）により1838年頃にメロディがつけられたものです。

将来を誓い合ったにもかかわらず政略結婚させられてしまい、忘れられない彼女の熱い思いを一遍の詩に託し、この詩を書いたといわれています。

すいすいすいすこころばし

石丸 寛 編曲

古くから歌われている「あそびうた」で子供のころの遊びを思い出します。何人かで輪をつくり、みんな手を軽く握って小さな穴を作る。そしてこの歌に合わせて順番に指を突っ込んでいきます。歌がちょうど終わった時に指をつっこまれていた人が負け、というわけです。この歌の内容にはいろいろな説があり、怖いような内容のものもあるようです。

昭和32年西南グリーの定期演奏会で故 石丸 寛氏によって演奏されました。

竹田の子守唄

林 雄一郎 編曲

京都は竹田地方で歌い継がれてきた子守唄（守り子唄）として有名です。「赤い鳥」と言うフォークグループが歌い、大ヒットして有名になりました。元来、子守りをすることもが赤ちゃんを抱きながら、あるいは背負いながら子守りのつらさ、寂しさを歌ったものです。

関西を中心に活躍されている尾上和彦さんが地元の方から教わった「竹田の守り子唄」と言われています。最初に歌ったのは当時のフォークシンガー“大塚孝彦”さんと“高田京子”さんだそうで、これを聞いた「赤い鳥」のリーダーであった後藤悦次郎さんが自分達のレパートリーにしたそうです。

The Battle O' Jerico

石丸 寛 編曲

故 石丸 寛氏が得意とされた“Afro-American Spiritual”の中の有名な一曲です。ユダヤ民族をエジプトの圧政虐待から開放したモーゼの意思を継ぎ、多くの民を連れヨシュアは故国イスラエルに帰ってくる直前、ジェリコの町の堅固な城壁に道をはばれてしまいました。その40年にわたる永い苦難の旅の最後の難関が、ジェリコ砦の戦いでした。彼は7日間城を取り巻き、毎日人々に羊の角笛を吹かせ、大声で神の栄光を叫ばせました。最後の7日目に高らかに角笛を吹くと、堅固な城壁が崩れ落ち、ジェリコの町に入ることができたのです。この歌は旧約聖書にある、この信仰による勝利の物語によってつくられました。

シャントゥール40周年記念演奏会の際、故 石丸 寛氏の指揮で歌われました。

OB合同ステージ

男声合唱組曲 「月光とピエロ」 より

堀口大学 作詞・清水 健 作曲

第4曲 「ピエロの嘆き」

第5曲 「月光とピエロとピエレットの唐草模様」

男声合唱経験者であれば一度は歌ったと言う男声合唱の名曲中の名曲です。「月光とピエロ」は全5曲からなる男声合唱組曲ですが、本日は第4曲、第5曲の2曲を歌います。“ピエロ”的笑いとペースソスをこれほどまでに表現した詩人 堀口大学。この詩を男声合唱曲として説得力のある作品に仕上げた作曲家 清水 健の最高傑作といえます。

（記：指揮者／馬頭経明）

昭和29年、西南学院大学を卒業、在学中グリークラブに在籍していた有志が中心となり、“もっと歌いたい”、“もっとやりたい事がある”ということから、西南シャントゥールという男声合唱団をグリークラブのOBで結成しました。

昭和29年創立時に、早速、合唱コンクール（当時は九州・山口地区を西部合唱コンクールとして開催されていました）に出場、いきなり西部代表として全国大会に出場し、3位に入賞、話題になりました。当時のメンバーは、学生時代に指揮者故石丸 寛氏や故福永陽一郎氏の薰陶を受けたメンバーが中心となり、戦後の西南学院グリークラブの礎をつくったといっても過言ではありません。

以後クリスマスコンサートや演奏会を開催してまいりましたが、メンバーはほとんどサラリーマンであるため、転勤や業務多忙等々が重なり合唱団は絶え曲折、解散の危機もありました。しかし、創立40周年では故石丸 寛氏を客演指揮者に迎え、盛大に記念演奏会を開催することができました。そして創立時より学生指揮者として活躍した内海敬三氏をはじめ、歴代の学生指揮経験者を指揮者として、同窓生の結束力で今年50周年を迎える事ができました。

今では平均年令が60才を超え、若き日の輝きは少々薄れて参りましたが、男声合唱にかける情熱は燃えづけております。

この度の記念演奏会では、女流作曲家としては多忙をきわめ、多方面に活躍中の作曲家 大島ミチル氏に創立50周年記念として男声合唱曲を委嘱いたしました。従来の合唱曲にはないようなドラマを感じさせる、この男声合唱曲『生命的誕生』を初演いたします。大島ミチル氏はNHKを中心に映画に、ドラマに、大活躍中であり、合唱曲専門の作曲家ではありませんが、デビュー時に、かの有名な男声合唱曲『御踊(おらしょ)』を作曲されおり、今回も感性豊かで、大変新鮮な雰囲気をもった男声合唱曲が草生したと思っております。

演奏会はこの他、なつかしい日本の歌を現代風に編曲した「無伴奏男声合唱による日本名歌集・ノスタルジア」、この他「シャントゥール50年の歩み」として、思い出のコンクールの“課題曲”“自由曲”を、そして故石丸 寛氏編曲のロシア民謡、黒人靈歌を中心に、創立以来歌いつがれている愛唱曲等を集め演奏することにいたしました。

また、最後に、今までシャントゥールで歌ったことがあるOB諸兄ならびに、グリークラブOB、西南学院グリークラブ現役を交えて合同演奏を企画いたしました。練習不足の感はありますが、西南学院スピリットを中心に集った者が全員で、歌う歓びを味わうことができ、その感動をお伝えすることができればと思っています。

おじいさん男声合唱団となってしまいましたが、男声合唱にかける情熱をご披露出来れば幸いな事と一同頑張っております。どうぞよろしくお願ひ致します。
(記：指揮者／馬頭経明)



創立40周年記念演奏会 合同ステージ(指揮:石丸寛)

《1年間の演奏活動》

2003年11月30日(アクロス福岡)●(創立49周年)第26回西南シャントゥール定期演奏会 12月08日(福岡市民会館)●福岡市民クリスマス音楽礼拝(有志参加)
12月23日(アクロス福岡)●(福岡女学院創立117周年記念)クリスマスコンサート“メサイア”(有志出演)
2004年05月05日(アクロス福岡)●アクロス福岡開館10周年記念2004ミュージックフェスティバル(有志参加) 06月11日(ソラリアホテル)●西南学院大学同窓会総会賛助出演
06月13日(カメリアホール)●第59回福岡県合唱連盟福岡支部合唱祭 10月20日(末永文化センター)●「石丸寛さんを偲ぶ会」
10月31日(柳川市民会館)●第19回国民文化祭・ふくおか2004「童謡・唱歌フェスティバル」 12月11日(アクロス福岡)●西南シャントゥール創立50周年記念定期演奏会

西南シャントゥール

1st Tenor	2nd Tenor	Baritone	Bass
秋根 武	的野 恭一	林 照樹	鶴原 太郎
乙藤 成美	福井 黙	本永 哲也	下川 勝史
宮地 基次	大石 宏	下村 武俊	木道 昇
高木 正志	野辺 和馬	中辻 浩一	田中 義信
中尾 武史	馬頭 経明	和田 正義	鶴 喜広
日高 良公	波多江 忠	鈴木 助	松枝 保匡
飛松 智明	徳永 和彦	栗野 寿泰	平田 大三郎
本山 和文	黒江 量二	石川 和義	阪井 俊文
山元 一憲	石橋 一幸	吉開 純幸	蓮尾 勝右
倉地 進	石松 茂	松尾 淳郎	波多野 勝彦
大司 真	今野 哲郎	佐藤 棟也	夏秋 穀昭
杉本 哲也	窪田 敏博	里中 健	森 博彦
山口 聰		小西 真二	八尋 憲二
諸熊 敏明		中嶋 恒生	中垣 登
			宮地 純

西南シャントゥールOB・西南学院グリークラブOB・西南学院グリークラブ

1st Tenor	2nd Tenor	Baritone	Bass
●内海 洋一	後藤 照男	宮崎 正旗	●山本 昭輔
川村 鈴二	刀根 亨一	川村 鈴二	●榎田 裕一
前田 栄一	鬼木 虎彦	坂本 讓	●望月 憲二
中田 健	●徳永 弘道	●内海 敬三	●井形 宣英
吉田 明弘	古賀 弘史	中村 勉	植木陽一郎
江藤 俊信	大平 春海	山田 智徳	小川 祐助
船越 修策	西山 繁政	江中 幸夫	山口 弘史
西山 正海	●福田 豊	今川 晋祐(05)	三原 秀雄
河野 達彦	●矢野 達彦	井上 貴喜(06)	西 弘光
●出口 幸一	下田 昭		森 猛
●西村 克俊	●佐藤 宗一	●藤村 文彬	●藤村 純一
阿部 忠臣	平塚 郁男	石崎 育	柴山 育
●原田 久瑞	永末 良一	●毛利 正明	●毛利 英一
天村 倫人	●波左間 実	山本 繁孝	畠井 正信
坂部 雅夫	篠原 隆盛	角 重治	松尾 宣夫
●日下部一徳	本村 亮	江中 百衣	正典
遠藤 英城(05)	古賀 遼平(07)	●朔 正毅	●朔 正毅
		綾部 武利	●伊飼 康史
			本田 悠(06)

[●印 / 西南シャントゥールOB]

創立50周年記念演奏会実行委員会

実 行 委 員 長: 的野 恭一
副委員長: 木道 昇
O B 担 当 部 会: 的野 恭一・石川 和義・夏秋 穀昭・石松 茂・今野 哲郎・佐藤 棟也・松尾 淳郎・山元 一憲・小西 真二
広報・チケット部会: 馬頭 経明・中尾 武史・窪田 敏博・大司 真
プログラム部会: 田中 義信・中尾 武史・山元 一憲・倉地 進
祝 賀 会 部 会: 木道 昇・古賀 正義・里中 健・中垣 登

定期演奏会のあゆみ

1 '56 演奏会 'Christmas Greeting with SEINAN CHANTEURS	1956.12.22 ランキンチャペル
2 '57 西南シャントワール独立演奏会	1957.05.24 電気ホール
3 '58 西南シャントワール演奏会 「クリスマスコンサート」	1958.12.18 電気ホール
4 '61 西南シャントワール演奏会 「冬のセレナーデ」	1961.12.16 電気ホール
5 '63 西南シャントワール演奏会	1963.05.11 電気ホール
6 '68 西南シャントワール演奏会 「クリスマスコンサート」	1968.12.21 福岡市民会館小ホール
* 西南学院クリークラブ創立50周年記念フェスティバル(現役と共催)	1969.12.20 電気ホール
7 '70 西南シャントワール演奏会「ファミリーコンサート」	1970.10.21 福岡市民会館小ホール
1 思い出の「コンクール課題曲」より	c:志渡澤 亨
2 黒人靈歌	c:志渡澤 亨
3 全員合唱	c:内海 敬三 pf:野尻 良三
4 賛助・西南学院短期大学フラウエンコール	c:森川 和子 pf:井上 良子
5 愛の歌	c:志渡澤 亨
6 童謡集	c:志渡澤 亨
8 '74 創立20周年記念演奏会	1974.11.8 市立少年文化会館ホール
1 宗教曲	c:志渡澤 亨
2 黒人靈歌	c:志渡澤 亨
3 [賛助] コール・エスピワール	c:森川 和子 pf:増田 尚子
4 男声四重唱・複四重唱	メロ・トーンズ他
5 男声合唱組曲「月光とビエロ」詩:堀口大学 曲:清水 哲	c:志渡澤 亨
9 '84 創立30周年記念演奏会	1984.10.12 福岡銀行大ホール
1 男声合唱組曲「柳河風俗詩」詩:北原白秋 曲:多田武彦	c:内海 敬三
2 シューベルト合唱曲より F. Schubert	c:内海 敬三 pf:井上 良子 九州ホルンクラブ
3 宗教曲	c:内海 敬三
4 [賛助] 西南学院大学フラウエンコール	c:森川 和子 pf:瀬川 啓子
5 イタリア民謡集 編曲:内海敬三	c:内海 敬三 pf:井上 良子
10 '85 定期演奏会	1985.10.11 市立西市民センター
1 ロバート・ショウ男声合唱曲集より	c:内海 敬三
2 [賛助出演] コロー・ピエール	c:内海 敬三
3 男声合唱組曲「中勘助の詩から」詩:中勘助 曲:多田武彦	c:内海 敬三
4 ドイツ男声合唱曲集より	c:内海 敬三
11 '86 定期演奏会 "Back Again Singing Christmas"	1986.12.6 都久志会館
1 クリスマス・キャロル	c:内海 敬三 pf:三成 寛子
2 [賛助] 西南ブリエール	c:野口 優 pf:瀬川 啓子
3 クリスマス・ソングス(ボビューラーソングを中心)に	c:内海 敬三 pf:三成 寛子 el-t:小河 索子
12 '87 定期演奏会	1987.11.28 福岡銀行大ホール
1 「スペイン民謡集」より	c:内海 敬三
2 [賛助] 西南ブリエール	c:野口 優 pf:伊徳 昌代
3 [合同] with 西南ブリエール	c:内海 敬三 pf:三成 寛子
4 第二ミサ曲 Charles Gounod	c:内海 敬三 pf:三成 寛子
5 黒人靈歌	c:内海 敬三
13 '88 定期演奏会 "Sing Along"	1988.12.3 福岡銀行大ホール
1 クリスマス・キャロル [賛助合同]西南ブリエール	c:内海 敬三 pf:中村 寛子
2 クリスマス・ボビューラーソング 編曲:内海敬三	c:内海 敬三 pf:中村 寛子
3 思い出のフォークソング 編曲:福島 豊	c:内海 敬三 el-t:勝瀬 真実 g:岡本 国士
4 愛かしのミッチ・ミラー愛唱曲 編曲:福島 豊	c:内海 敬三 el-t:勝瀬 真実 g:岡本 国士
14 '89 定期演奏会	1989.12.2 福岡銀行大ホール
1 クリスマス曲集	c:内海 敬三 pf:三成 寛子
2 [賛助] 女声合唱団「けやき」	c:宮崎 哲 pf:山田 光子
3 「きまぐれエッセイ」詞:海野洋司 編曲:南 安雄	c:内海 敬三
3 荘厳ミサ 曲:アルベール・デュオバ	c:内海 敬三
4 男声合唱組曲「緑深き故郷の村にて」詩:伊藤 整 曲:多田武彦	c:内海 敬三
15 '90 定期演奏会	1990.11.23 メルパルクホール福岡
1 清水脩の二つの男声合唱組曲	c:内海 敬三
「毛錢の三つの詩」詩:淵上毛鶴 曲:清水 哲	
「大手拓次の三つの詩」詩:大手拓次 曲:清水 哲	
2 [賛助] コール・エスピワール	c:森脇 憲三 pf:岡本 えり
「博多まつりの四季」詩:持田勝穂 曲:森脇憲三	
3 Sound Cocktail with Love 編曲:福島 豊 p-arr:三成 寛子	c:内海 敬三 pf:三成 寛子 syn:今井 真理

定期演奏会のあゆみ

16 '91 定期演奏会	1991.11.24 メルパルクホール福岡
1 男声合唱組曲「桜の木の歌」詩:尾崎喜八 曲:多田武彦	c:内海 敬三
2 [賛助] エコ・西高宮 「四つのイタリーのマドリガル」コダーリ・ゾルターン	c:行徳 駿代 pf:吉良 かほる
3 男声合唱組曲「アイヌのウボボ」探譜:近藤鏡二郎 曲:清水 哲	c:内海 敬三
4 黒人靈歌	c:内海 敬三 ten:E.A.ハジベトロフ
17 '92 定期演奏会	1992.11.14 メルパルクホール福岡
1 ロシア民謡	c:内海 敬三
2 [賛助] RKB女声合唱団 秋に轟う名曲ア・カルト	c:尾籠 一夫 pf:山尾 美保
3 Themes from Movies and Musicals arr:福田 豊	c:馬頭 紹明 pf:中村 寛子 el-t:矢野 江里子
4 男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」詩:尾崎喜八 曲:多田武彦	c:内海 敬三
18 '93 定期演奏会	1993.11.13 メルパルクホール福岡
1 Le Canzoni Italiani 編曲:内海敬三	c:内海 敬三 pf:小賀 直美
2 [賛助] 西南学院大学フラウエンコール Dreamin' Night ~ディズニーが贈る夢の世界~	c:佐藤 信子 pf:池見 朋子
3 [合同] with:西南ブリエール&西南学院大学フラウエンコール ロシア民謡	c:馬頭 紹明 pf:瀬川 啓子
4 男声合唱組曲「桔木と太陽の歌」詩:中田浩一郎 曲:石井 歓	c:内海 敬三 pf:瀬川 啓子
19 創立40周年記念 '94 定期演奏会	1994.11.11 福岡サンパレス
1 宗教曲 < CANTATE DOMINO>	c:内海 敬三
2 シューベルト男声合唱曲集	c:石丸 寛
3 <創立40周年記念委嘱作品> 男声合唱組曲「思い出」詩:北原白秋 曲:多田武彦	c:内海 敬三
4 <合同演奏> with 西南学院グリークラブ 黒人靈歌 編曲:石丸 寛	c:石丸 寛
20 '95 定期演奏会【徳永麟之助米寿祝賀記念】	1995.11.04 メルパルクホール福岡
エール『Hail Seiman』委嘱初演 詞:A.グレーブス 曲:多田武彦	c:内海 敬三
1 男声合唱組曲「東京景物詩」詩:北原白秋 曲:多田武彦	c:馬頭 紹明 ob:羽立 朋子 h:中野 茂樹
2 Songs of The New World	c:内海 敬三 pf:瀬川 啓子
3 <合同演奏> with 女声合唱団「けやき」 Songs From Broadway Musicals	c:内海 敬三 pf:瀬川 啓子
4 男声合唱組曲「海鳥の詩」詩:更科源蔵 曲:広瀬量平	c:内海 敬三 pf:瀬川 啓子
21 '96 定期演奏会	1996.11.02 メルパルクホール福岡
1 The Student Prince 編曲:北村協一	c:内海 敬三 pf:瀬川 啓子
2 [賛助] 西南学院グリークラブ 男声合唱組曲「柳河風俗詩」詩:北原白秋 曲:多田武彦	c:嘉屋 崇之
3 <委嘱作品> 日本の歌による男声合唱のためのメドレー「海へ山へ」 編曲:吉田悠作	c:徳永 和彦 pf:瀬川 啓子
4 北欧の歌	c:内海 敬三
22 '97 定期演奏会	1997.11.08 アクロス福岡シンフォニーホール
1 <委嘱作品> 男声合唱組曲「三崎のうた・第二」 詩:北原白秋 曲:多田武彦	c:徳永 和彦
2 <委嘱作品> 男声合唱とハープのためのアイルランド民謡 編曲:吉田悠作	c:内海 敬三 hp:荒尾 ルミ子
3 [賛助出演] 西南学院グリークラブ 男声合唱組曲「雪国にて」詩:堀口大学 曲:多田武彦	c:宮田 王恵美
4 レ凱イエム 二短調より 曲:L.ケルビニー	c:内海 敬三 org:平田 孝子 tim:疋田 康敏
23 '98 定期演奏会(第21回)	1998.11.23 アクロス福岡シンフォニーホール
1 黒人靈歌 Afro-American Spirituals	c:内海 敬三 pf:瀬川 啓子
2 [賛助出演] 西南学院グリークラブ 男声合唱組曲「雪と花火」詩:北原白秋 曲:多田武彦	c:小野 大介
3 男声合唱組曲「永訣の朝」詩:宮沢賢治 曲:鈴木憲夫	c:内海 敬三 pf:瀬川 啓子
4 オペラ男声合唱曲	c:内海 敬三 pf:瀬川 啓子 鈴鹿亞紀子
24 '99 定期演奏会(第22回)	1999.11.25 アクロス福岡シンフォニーホール
1 無伴奏男声合唱曲「シューベルトの『鱒』変奏曲」編:F.シューベルト	c:馬頭 紹明
2 [賛助出演] 西南学院グリークラブ 男声合唱組曲「三崎のうた」詩:北原白秋 曲:多田武彦	c:龍 誠
3 男声合唱とピアノのための「花に寄せて」(抄)	c:内海 敬三 pf:瀬川 啓子 新美徳英
4 [合同演奏] 賛助出演:西南学院グリークラブ 男声合唱組曲「月光とビエロ」詩:堀口大学 曲:清水 哲	c:内海 敬三 pf:瀬川 啓子
	c:内海 敬三

定期演奏会のあゆみ

25. 2000定期演奏会(第23回)

1 男声合唱組曲「光のうた」詩:川崎洋 曲:大中恩
2 [賛助出演]佳の会
「イタリア歌曲集」より
3 <委嘱作品> 男声合唱曲「日本の歌メドレー」編曲:宇野正寛
4 男声合唱組曲「緑深い故郷の村で」詩:伊藤整 曲:多田武彦

26. '01定期演奏会(第24回)

1 男声合唱とピアノのための「AVE MARIA」編曲:内海敬三
2 [賛助]グリーンヒルコール&フラウエンコール南
『日本の抒情をすばねて』
【合同】「夢みたのは」詩:立原道造 曲:木下牧子
3 SONGS OF AMERICA(アメリカをうたう)

4 「さすらう若人の歌」曲:G.マーラー 編曲:福永陽一郎

27. '02定期演奏会(第25回)

1 男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」詩:尾崎喜八 曲:多田武彦
2 [賛助]コール・エスボワール
女声合唱曲集「もう一つを」曲:大中恩
女声合唱とピアノのための組曲「葡萄の歌」より「葡萄の歌」
詩:関根栄一 曲:湯山昭

3 黒人靈歌
4 男声合唱組曲「水のいのち」詩:高野喜久雄 曲:高田三郎

28. '03定期演奏会(第26回)

1 宗教曲「歌:徳永麟之助会長に捧げます」
2 男声合唱組曲「柳河風俗詩・第二」詩:北原白秋 曲:多田武彦
3 男声合唱曲集「空に…」曲:新実徳英
4 It's A Wonderful Christmas(クリスマス曲集)

c:指揮 pf:ピアノ sop:ソプラノ ten:テノール bas:バス el-t:エレクトーン hp:ハープ h:ハーモニカ
ob:オーボエ g:ギター tim:ティンバニー org:オルガン syn:シンセサイザー

♪カンニングプレスの50年

カンニングプレスとはプレス(呼吸)位置が分からないように各パート内でそれぞれ各自のプレス位置をずらして、あたかも複数の小節がノンプレスで歌われているように聞かせる裏技です。

シャントゥールも多くの方々に支えられて50年が経ちました。この間、日本丸の浮き沈みの中、幾人ものメンバーが走ってきましたが、各世代のメンバーが交互に、歌える時期に参加して伝統を繋いでくれました。丁度カンニングプレスのように。そして今、再び顔中に年輪を刻んで幾人かの旧メンバーが帰ってきました。勿論創設以来のメンバーもまだ健在です。今日の舞台はそれぞれの思いが歌の中で爆発します。

50周年の企画で西南学院グリークラブの一般のOBとの合同のステージが実現しました。遠くは東京方面から、他地域で合唱を続けていた人、卒業以来数十年ぶりに歌う人、総勢百二十名の大合唱で男声合唱組曲の古典「月光とビエロ」の中から二曲を熱唱します。ご期待下さい。

今は亡き、石丸 寛氏が「福岡の地に音楽の線を」と福岡で活躍し音楽活動をされたことはよく知られていますが、氏によって種が蒔かれた音楽の線は大きく育ちました。九州交響楽団は別格として、福岡合唱協会、RKB女声合唱団、そして西南シャントゥール、それぞれが樹齢50年の大きな樹木に育ちました。石丸氏は戦後の西南学院グリークラブの育ての親であり、氏がグリーのために編曲した曲は数知れません。グリークラブOBのシャントゥールにとっては恩返しができないまま年月が経っていましたが、十年前の40周年記念演奏会でステージに立って頂いたのが最後となりました。お元気でおられたら必ずや本日のステージにも立って頂けた事と思うと誠に残念です。(内緒ですが……、本日、石丸氏の10年前の声をお聞かせします)

この50年の間、シャントゥールの演奏活動に多くの団体や個人の方が係わってこられました。そして又、毎回多くのお客様に会場に足を運んで頂きました。心より感謝申し上げます。有難うございました。

同じ50年前に現れた「ゴジラ」は今年で最後になる由。ゴジラはなくなってしまって西南シャントゥールの雄叫はまだまだ続きます。今後とも宜しくご支援くださいますようにお願い申し上げます。

最後になりましたが、この記念演奏会を今は亡き徳永前会長をはじめ、メンバー、グリーOB諸兄、そして福岡の地で合唱をこよなく愛した同志の皆様の御靈に謹んで捧げます。
(G.マネージャー/中尾武史)



天神どまんなかの「福岡国際ホール」

同窓会・記念祝賀会・食事会・講演会
展示会・記念式典・各種会議・研修会

交通便利な!

福岡国際ホール

福岡市中央区天神1丁目4-1西日本新聞会館16階
092(712)8855

きどう動物病院

KIDOU SMALL ANIMAL HOSPITAL

獣医師 木道 寛・木道浩子



福岡市城南区田島5-4-18
TEL 092-862-1222

祝50周年



コカ・コーラ ウエスト ジャパン株式会社

福岡市東区箱崎7丁目9番66号

西南学院グリークラブ 第53回定期演奏会

2005年1月16日(日)17時開演
中央市民センター・ホール

* 男声合唱組曲「柳河風俗詩」(OB合同)
* Spirituals(OB合同) ほか

お問い合わせ 犬生孝之 090-4486-4591

予告

第28回西南シャントゥール定期演奏会

2005年12月11日(日)
アクロス福岡シンフォニーホール

沖縄男声合唱団・西南シャントゥール ジョイントコンサート

2005年11月12日(土)
那覇市民会館



愛猫へのこだわりのおいしさ、キャラット・懷石2dish。

- 2つの贅沢素材をおいしくトッピング、さらに1箱で2つのおいしさ
- いつも開けたてのおいしさ（脱酸素剤入り／風味を逃がさない小分けパック）
- 健康のための細かい配慮（FUSに配慮／おなかにやさしいマイクログラインド製法）



海のぜいたく おいしさあわせ 海のおいしさ 大地のおいしさ

ペットの元気と長生きのために。

発売元 日清ペットフード株式会社
お客様相談室 ☎ 0120-22-1124
<http://www.nisshin-pet.co.jp/>

毎日おねだりの グルメフード



もう残さない、食べ飽きない、
まったく新しいおいしさ。
1粒1粒に贅沢な素材の旨味を
ギュッと閉じ込めました。



[お魚づくし]



[お魚・お肉・野菜入り]



■従来のドライフードの約3倍[®]の旨味を1粒1粒に凝縮。■当社製品との比較
■主食として必要な栄養バランスも考慮した成長段階用総合栄養食。
■猫の全般尿路結石に配慮して、マグネシウム量を調整(含有量0.08%:標準値)。
■目の健康に配慮してタウリン配合。

● 〒141-0031 東京都品川区西五反田7-20-9 FSDビル5F ユニ・チャーム ペットケア(株)

● お問い合わせ先フリーダイヤル 0120-810-539 ユニ・チャーム ペットケア株式会社お客様相談室 <http://www.uc-petcare.co.jp>



MORIMITSU

Grain & Pet Care Communication

株式会社 森光商店

〒841-8611 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜9-7
PHONE. 0942-85-1125(代) FAX.0942-82-9780

●プログラム：表紙デザイン/田中義信 広告/的野恭一・木道 昇・平田大三郎 制作/中尾武史



YAMAMOTO
Bumpodo

Since 1932

株式会社 山本文房堂

本店/福岡市中央区大名2丁目4-32 ☎ 092(751)4342



Since 1954 To 2004